研究主題 他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 (一年次) ~ 「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる~

Ⅰ 団体の概要・目的

昭和24年に発足。国語教育の理論と実践について研究し、東京都小学校国語教育の推進と発展に寄与することを目的とした研究会。令和5年度の会員数は238名。毎年研究の成果について公開発表し、国語教育の充実と発展に努めている。今年度の研究大会は、今年度で通算第34回を数える。令和8年度の全国小学校国語教育研究会において東京大会を開催することを見据えた研究を進めている。

Ⅱ 研究組織・取組

「話すこと・聞くこと部」「書くこと部」「読むこと部」「言語部」の四つの研究部に分かれて、研究主題、副主題に基づいて各部の研究主題を設定して単元開発を行っている。開発した単元は、9月から12月の間に2回~3回の定例研究会において公開し、協議を行う。その後の部会で更に検討を重ね、2月の研究大会で公開している。

会全体としては年間を通して以下のような取組をしている。

- (1)研究大会事業
- ①都小国研総会・講演会・研究委員総会(5月)
- ②都小国研多摩地区研究会 総会・研究大会 (5月)
- ③都小国研研究大会(2月)
- (2)研究調査事業
- ①都小国研まなび塾 (7月) 多摩まなび塾 (10月)
- ②研究各部の定例研究会(「大会」に対して「小研」という)各部で実施
- ③研究各部の研究活動
- ④地域の研究活動への協力
- (3)研究成果刊行事業
- ①機関誌・会報の発行 東京都小学校国語教育研究会・機関誌 国語教育 年2回 都小国研多摩地区研究会会報 国語教育 年2回
- ②研究紀要の発行

Ⅲ 研究主題について

国語科においては、言葉による見方・考え方を働かせることにより、子どもたちの言葉への自覚が高まり、子どもは自らの国語学習や言語生活を振り返り、言葉の使い方や使われ方に対する視点や規準をもつことができる。このことにより、学習への自覚が促され、身に付けたい言葉の力を意識し、自ら学習を進めていくことにつながる。こうした学びを積み重ねることで、他教科や日常生活にも活用するようになり、豊かな言語生活につながると考える。学びの中では他者と協働する活動は欠かせない。他者との協働を重ねることで、自らの学びや身に付けた言葉の力を広げ、深め、高めていくことができると考える。

そこで、研究主題を「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習」と位置付け、3か年にわたって研究を深めることを目指し、副主題を設定した。

- 一年次「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる
- 二年次 身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める

三年次 学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする これまで「主体的、対話的で、深い学びの視点による授業改善」を視野に入 れ研究を進めてきたという実績を受け、都小国研全体としての研究を高めてい くため、以下の観点を共有して研究を進める。

- (1)児童が(本単元において)身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。
- (2)学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)
- (3)獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

〈各部の研究主題〉

【話すこと・聞くこと部】「求めて聞き、関わって伝える力」を育てるために 【書くこと部】主体的・対話的な書くことの単元づくり 【読むこと部】自立した学習者を育てる読むことの指導 【言語部】言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり

Ⅳ 今年度の各研究部の研究内容・開発単元

【話すこと・聞くこと部】講師 都小国研顧問 邑上 裕子先生

[研究内容]①児童の実態把握・分析に基づいた単元で身に付けさせたい力の 設定 ②単元づくりの工夫③学習活動の工夫 ④評価の工夫 [開発単元]

2年生 「元気になあれ!おすすめサラダをめしあがれ!~友達と聞き合って 考えよう~」

5年生「お札にするならこの人が推し!~心を動かすスピーチをしよう~」

【書くこと部】 講師 都小国研顧問 成家 亘宏先生

[研究内容]①単元開発の工夫[O次、文例の提示、実の場]②柔軟な学習過程の工夫[往還的/複線型]③対話型な学びのための工夫 ④評価活動の充実 [開発単元]

2年生「しょうかいします!ステキ賞☆~友だちのいいところをしょうかいする文 しょうを書こう~」

5年生「教えてあげる!わたしの『推し』~生活を振り返って好きなことや得意なことについて紹介する文章を書く~!

【読むこと部】講師 都小国研顧問 岸本 修二先生

[研究内容]①児童が身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組むための工夫②自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつための工夫③児童が獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにするための工夫

〔開発単元〕

2年生「そうぞうしたことを音読げきであらわそう」(学習材「お手紙」)

4年生「場面のうつりかわりと結びつけ、登場人物の気持ちの変化を読もう」 (学習材「ごんぎつね」)

6年生「太一の生き方を考えよう」(学習材「海の命」)

【言語部】講師都小国研顧問令村久二先生参与泉 宜宏先生

[研究内容]①言葉の学習が「書くこと」に生きる単元構成の工夫

②言葉に親しむための仕掛けづくり、開発

〔開発単元〕

2年生「ことばのアルバムをつくろう~ようすをくわしく書こう~(仮)」

5年生「和の文化 パンフレットで伝えよう(仮)」

V 第34回研究大会の予定

(詳細は本会ホームページをご覧ください。)

■ 日時

令和6年2月16日(金)

午後1時 40 分~4時 45 分

■ 開催方法…都内4会場校での分散開催

第1会場 西東京市立田無小学校【話すこと・聞くこと部】

第2会場 中野区立令和小学校【書くこと部】

第3会場 江東区立第二辰巳小学校【読むこと部】

第4会場 練馬区立向山小学校【言語部】

■ 時程

13:40~ 公開授業

14:35~ 研究発表•研究協議

都小国研顧問による指導・講評

15:40~ 全体会(オンライン配信)

15:55~ 講演予定(オンライン配信)

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 大塚 健太郎 先生

■ 参加費 無料(都内公立小学校教職員及び本会名簿登録者)

VI 研究会への参加について

随時募集しています。下記事務局までお問い合わせください。

〈令和5年度連絡先〉

<令和5年度連絡先>			
団体名		東京都小学校国語教育研究会	
	所属	文京区立千駄木小学校	
代表者	職 氏名	校長 山口 麻衣	
	連絡先	03-3821-71	6 8
	所属	練馬区立向山小学校	
事務局	職 氏名	校長 小池 智彦	nw.
	連絡先	03-3999-9145	
		URL	二次元コード
団体ホームページ		http://tosyoukoku.org/wp/	

研究主題 社会とつながり未来を創る子供の育成

~社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して~

I 団体の概要

昭和26(1951)年の発足から70年間以上続く歴史 ある社会科の研究団体です。現在、第3学年から第6 学年まで四つの研究部会に分かれて、社会科授業の実 践研究を行っています。教材開発、指導方法、評価等 の実践など、各部会で年2~3回ほどの研究授業を中 心に、部員による学び合いを深めています。

令和5年11月9日には浅草公会堂で、全国小学校 社会科研究協議会研究大会東京大会の開会行事・全体 会・記念講演会を開催しました。また、同月10日に は、都内4会場(新宿区立四谷小学校、小金井市立小 金井第一小学校、中央区立日本橋小学校、世田谷区立

代沢小学校)で会場別研究会を実施し、 全国各地から合わせて1600名以上 の参加者が集まりました。そして、公 開授業や実践提案を基にして、これか らの社会科授業のあり方について、熱 心に協議し、研究を深めました。

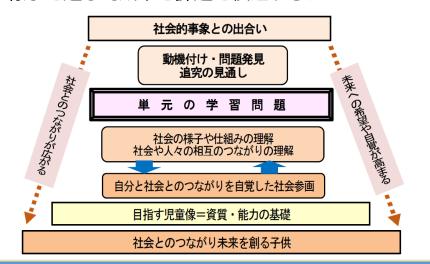


Ⅱ 研究の目的

社会的事象の見方・考え方を働かせながら、児 童主体の問題解決的な学習を展開し、知識及び技 能、思考力・判断力・表現力等を統一的に育む実 践を積み重ねながら研究主題(副主題含む)の実 現及び理論の充実を図り、広く発信する。

Ⅲ 研究の方法

教材開発や教材の分析などの単元構想の側面及び、授業づくりの手だての工夫の二つの側面から単元設計や毎時間の授業設計をし、子供の学びの様子を通して成果と課題を検証する。



Ⅳ 研究の内容

1 単元の構想

- ・社会とのつながりを意識できる教材、東京らしさ やよさを感じ、都民としての誇りがもてる教材、 人の営みや働きに共感できる教材を開発する。
- ・学習指導要領解説を参考に、「知識」「見方・考え方」「問い」「資料」の四つの観点から教材を分析するとともに、子供の思考の流れを想定し、単元を構想する。
- 2 授業づくりの手だて
- ①主体的に問いを追究する工夫
 - ・問題意識が高まり問いが生まれる社会的事象との出合いのT夫
 - ・予想や学習計画立案と子供の思考に即した問いの構成の 工夫
 - ・調べる対象、資料や方法を子供が選んで追究する展開や 学習活動の工夫
- ②社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫
 - ・視点に着目して問いについて調べる学習活動の工夫
 - ・比較・分類・総合・関連付けて考察する学習活動の工夫
 - ・社会に見られる課題の解決や関わり方について議論し 考えを高め合う学習活動の工夫
- ③子供の学びを確かにする評価の工夫
 - ・3観点による評価計画の作成
 - ・指導と評価の一体化を図るための評価の工夫
 - ・子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価 活動の工夫

V 研究の成果と課題

<成果>

- ○東京都の特色を生かし、東京らしい教材を活用した授業を行ったことで、主題の実現に迫ることができた。
- ○学習指導要領の分析等を踏まえ、単元構想図に表し、それを基に見方・考え方を働かせ主体的な学びを促す指導計画を作成、確かな理解と主体的に学ぶ態度を養う授業の具現化を図ることができた。
- ○オール東京の体制で令和5年度東京大会を開催し、 これからの社会科授業のあり方について研究の成果 を基に、全国へ広く発信することができた。

<課題>

●理論の明確化と授業への具現化 新体制構築

団体名		東京都小学校社会科研究会		
	所属	板橋区立上板橋第四小学校		
代表者	職 氏名	校長 和田 幹夫		
	連絡先	03-3932-63	3 1 7	
	所属	青梅市立新町小学	小学校	
事務局	職 氏名	校長 塚田 直樹	讨	
	連絡先	0428-31-02	2 6 8	
		URL	二次元コード	
団体ホームページ		https://www11.schoolweb.ne.jp/ swas/index.php?id=1350008		



【都算研のシンボルマーク】

本研究会創立70周年記念時に作成したピンバッジである。円の中にルーローの三角形をデザインし、その中にある4つの三角形は、「数学的活動」を中心に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を表している。

研究主題 「数学的に考える資質・能力を育てる指導と評価の在り方」

【団体の概要】

東京都算数教育研究会(都算研)は、昭和25年(1950年)に発足した研究会である。算数教育の推進ならびに会員相互の研鑽を図るとともに、東京都の算数教育振興に貢献することを目的としている。研究の成果を東京都の全ての子供たちに還元するために、東京都教育委員会からの認定を受け、活動を展開している。

組織は、庶務部・会計部・研究部・発表部・編集部・育成部の6事業部で構成している。

研究活動は、研究部の4委員会(研究委員会・授業研究委員会・実態調査委員会・資料委員会)が、それぞれ課題を設定して推進し、毎年の研究発表会や授業研究会の開催及び会報や研究物の発行等で研究過程や成果を発信している。また、今年度で18期を迎える独自の研究員制度を設け、これからの東京都の算数教育を牽引する人材を育成している。

【研究主題】

過去20年以上にわたり、「数学的な考え方」の育成に焦点を当て、その指導と評価についての研究に取り組んできた。 令和5年度は、学習指導要領の「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して、数学的な資質・能力の育成を目 指す」という目標を達成するために、研究主題を「数学的に考える資質・能力を育てる指導と評価の在り方」とした。東京 都の算数教育をリードする役割を担いながら、令和の日本型学校教育の実現に向け、指導の改善・充実を図っていく。

【研究委員会】

都算研全体の研究主題「数学的に考える資質・能力を育てる指導と評価の在り方」を明らかにするため、「学習指導要領」や「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づき、理論研究と検証を進めた。具体的には、単元の「指導と評価の計画」の中に数学的な見方・考え方を働かせていると考えられる「期待する児童の姿」を示した。さらに、授業内において個々の児童を評価する場面を設定し、その評価に応じた「教師の役割や手だて」を実施する。これらによって「期待する児童の姿」に迫ることができるかについて、授業実践を通して検証した。(B図形領域を対象とした)「検証授業(●は研究発表会〔会場:調布一小〕)〕

- ○5年「図形の角」小平・小平一小:主任教諭 熊谷康治
- ●6年「円の面積」目黒・碑小:指導教諭 大村英視
- ○4年「面積」立川・西砂小:指導教諭 小泉友

[成果(まとめ)]

指導者が「期待する児童の姿」を想定し、授業内においては指導と評価の 一体化によって手だてを講じること (形成的評価) が、数学的に考える資質・ 能力の育成につながることを示すことができた。

【授業研究委員会】

算数の授業実践に志をもつ教員を募り、教材の本質を捉えた授業の在り方を探究し、授業を提案した。また、その成果と課題を研究紀要にまとめた。研究主題を「数学的な思考力、判断力、表現力を育てる授業」と設定し、都算研の進める授業づくりを普及・啓発した。

[授業研究会(●は研究発表会〔会場:調布一小〕)]

- ○3年「あまりのあるわり算」多摩・東寺方小:主任教諭 野中哲平
- ○5年「図形の角を調べよう」国立・国立八小:主任教諭 藤井隆
- ○1年「かたちあそび」江戸川・二之江二小 主任教諭 長谷川貴明
- ●4年「計算のやくそくを調べよう」北・王子五小:主幹教諭 市野佑弥
- ●2年「新しい計算を考えよう」国分寺・三小:主任教諭 長島寛和
- ○2年「かけ算(2)九九をつくろう」小金井・小金井三小:主幹教諭 島津智子 [成果(まとめ)]

数学的な思考力、判断力、表現力を育成するためには、目指す児童の具体的な姿を明確にして授業づくりを行う必要がある。その授業において数学的な見方・考え方から育てたい数学的な思考力、判断力、表現力は何か、また、その指導の手だてについて研究を進め、授業を提案することができた。

【実態調査委員会】

都内小学校児童を対象に、算数の学力実態調査を実施し、定着の状況や誤答分析から、東京都の算数教育の成果と課題を明らかにしている。本調査は、昭和39年から続く歴史のある調査である。令和3年度からは、現行の学習指導要領に対応するため、全体的に整理し直された「A数と計算」「B図形」「C測定(下学年)」「C変化と関係(上学年)」「Dデータの活用」の5つの領域を基に、「数と計算・データの活用」「図形・測定・変化と関係」の2通りの問題で調査を実施することとした。昨年度は、新たな「図形・測定・変化と関係」領域の問題で調査を行い、各学年約5万人、全体で約32.7万人分のデータが集まった。今年度は、「数と計算・データの活用」領域の問題を、これまでの調査結果との比較ができるよう、令和3年度実施の同領域の問題を基に、一部修正を加えて作成し、調査を行った。

「成果(まとめ)]

令和4年度実施の学力実態調査の集計結果と考察を研究発表会にて報告 し、「B図形」「C測定(下学年)」「C変化と関係(上学年)」領域に 関するつまずきの分析と指導の手だてを示すことができた。この集計結果 と考察は、本会ホームページにて公開している。

【育成部】〔研究員による研究推進と教員の育成〕

各地区の小学校算数教育研究活動の中核となる教員を養成し、東京都の小学校教育の充実に資することを趣旨として研究活動を行っている。

月 例 会	設定した研究主題を実現するための研究授業及び考察
夏季講座	夏季休業中の研究内容の中間発表及び指導を受けること
研究発表会	授業公開・研究発表・研究協議等による成果の発表

[研究主題] 数学的な見方・考え方を働かせ、問題解決する児童の育成 〜焦点化した問題をつくりだす過程に視点を当てて〜

本研究では、児童が数学的な見方・考え方を働かせて、「数学的に表現された問題」を解決する過程に「はてなタイム」を設定した。連鎖した問いを児童が生む場面を設定したことで、児童自身が「焦点化した問題」を見出し明確化することができた。このように学んだことを統合・発展させながら新たな問いを次々と見出しながら問題解決できる児童の育成を目指した。

[実践事例] 5・6月:4年小数のしくみ「はんぱな量の表し方を考えよう」「小数の大きさ比べをしよう」、7月:2年水のかさ「どちらが多いかな」、9月:3年円と球「中心はどこかな」(以上、前期に実践した事例)

【資料委員会】

実態調査委員会が実施し、その集計結果の考察を基に、正答率の低かった 問題や指導上課題となっている問題を取り上げ、児童のつまずきの要因を探 り、授業での検証と協議を重ね、つまずきを改善する学習指導案と指導資料 を作成した。

「検証授業及び指導資料の作成】

- ○1年 ひろさくらべ(立野小・竹内、桜野小・米倉、西浮間小・新津)
- ○2年 長方形と正方形 (矢崎小・熊田、南陽小・山崎)
- ○3年 円と球(矢口西小・吾郷、港南小・嵐、松枝小・田中)
- ○4年 変わり方(志村小・松田、両国小・田中、和泉小・佐藤)
- ○5年 単位量あたりの大きさ(下鎌田小・吉武、志村三小・田口、 立川五小・片桐)
- ○6年 比(希望丘小・原、湯島小・鎌田、三園小・青柳)
- ●研究発表会 [会場:調布一小] 発表者:湯島小・鎌田水都城 [成果(まとめ)]

資料や教材の検討、模擬授業を踏まえての協議を実施し、充実した指導資料を作成することができた。

※詳しい研究の内容と成果は、研究紀要や都算研のHPをご覧ください。

[http://tosanken.main.jp/]

<連絡先>

団体名		東京都算数教育研究会
	所属	稲城市立稲城第二小学校
代表者	職 氏名	校長 濱田 伸
	連絡先	042-331-5709
車 数 巳	所属	清瀬市立清瀬小学校
事務局(研究部)	職 氏名	校長 谷口 雄麿
(네마 그 네네)	連絡先	042-493-4311

研究主題 自然と向き合い、多様な考えを受け入れ、主体的に問題を解決する理科学習 ~評価を基盤とした指導による資質・能力の育成~

Ⅰ 団体の概要と取組

東京都小学校理科教育研究会(都小理)は、理科教育の充実・発展に資するため、各区市町村教育研究会理科部会と連携し、研究・研修、人材育成、調査、広報等の諸活動に取り組んでいる。4つの領域別研究推進委員会(エネルギー・粒子・生命・地球)において実践研究を重ね、2月に都小理研究発表会を開催し研究成果を広く周知する。

Ⅱ 研究の内容

課題 1 理科の見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成する指導方法の工夫



〈都小理型 問題解決のプロセス〉

「都小理型 問題解決のプロセス」を学習活動の基盤とする。そのうえで、個々の子供が有する「理科の見方・考え方」を十分に働かせることができるよう授業をマネジメントし、生きて働く知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養を通じバランスよく子供の一人一人の資質・能力を育むための指導の工夫を図る。

課題 2 子供の学習状況を分析的に見取り、指導改善に生かすための学習評価 の工夫

子供にとっての学習評価は、自らの学習を振り返り、次の学習へ向かう動機付けとしての働きをもつ。また、教師にとっての学習評価は、「子供にどのような力がどの程度身に付いたか」という自らの指導の成果を適切に捉え、指導の改善につなげる働きをもつ。したがって、教育課程や、指導方法の改善と一貫性のある取組として学習評価を進めていく必要がある。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価との関わりにおいては、「子供一人一人の学習の成立を促すための評価(学習評価の形成的機能)という視点を重視して研究を進めた。評価を行うに当たっては、都小理が令和4年3月に示した「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用した。

課題3 一人1台端末を活用した指導方法及び学習評価の工夫

GIGA スクール構想の趣旨に照らし合わせて、ICT の効果的な活用を図る。その際、課題1及び課題2の取組の過程において、一人1台端末の効果的な活用を工夫する。例えば、観察・実験の写真や動画による記録、他者の意見の収集、ネットから得た情報等を活用するなどして、根拠のある結論を導き出すなどの学習活動を設定することで、子供の考えの深まりの可視化を図る。

Ⅲ 研究の成果

① 「理科の見方・考え方」を働かせて、資質・能力を育成する指導方法の工夫 について提案した。

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都小学校理科教育研究会】

児童が問題解決プロセスを無理なく踏んでいける観察カードの工夫をした。





この1枚の観察カードで「望ましい結果の想定」「観察の実施」「結果の整理」「考察」「予想や仮説の設定」を無理なく行うことができた。書き溜めた観察カードを蛇腹状につなぎ、以前の季節の様子と今の様子を比較しやすくし、1年を通じた観察の結果をまとめる活動に活用できた。

② 子供の学習状況を分析的に見取り、指導改善に生かすための学習評価の工夫について提案した。

今年度は、子供一人一人の学習状況が評価基準の「A」「B」「C」のどれにあたるかの評価を行えるよう、各領域の授業実践を踏まえての構造化を目指した。

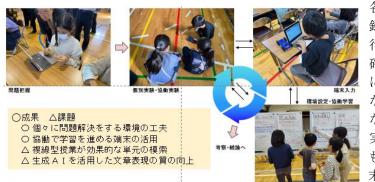
思考・判断・表現について



「思考・判断・表現」の評価基準を実際の指導で生かし、個に応じた指導を充実させるため、これを学習指導案に明示し、「指導と評価の計画」と一体化させながら授業での活用を図った。

指導案作成に当たって、当該学級における「思考・判断・表現」について、前単元の評価を本単元における指導改善に反映させるようする PDCA サイクルによる学習指導案作成段階での指導と評価の一体化を図った。

③ 一人1台端末を活用した効果的な学びの把握について提案した。



状況を一斉に把握し、必要な児童への支援に活用する授業を提案した。今後は文章生成 AI の援用による、教師による指導と評価の一体化の一層の充実を図っていく。

Ⅳ 今後の課題

- ① 「都小理型 問題解決プロセス」について、「個別最適な学び」「協働的な学び」を踏まえるなどして適宜更新を推進する。
- ② 評価基準、特に A 基準の設定に係る考え方について、設定に係る仮説を明確にし、実践を通してブラッシュアップさせていく。
- ③ 「都小理型 問題解決プロセス」における ICT を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体化の実現について研究を深める。

Ⅴ 今後の活動予定

- 都小理研究発表会 -

日時:令和6年2月16日(金) 於:府中市立南白糸台小学校

授業公開 • 研究協議 • 講演等

講師: 文部科学省初等中等局教科調查官 有本 淳 先生

団体名		東京都小学校理科教育研究会
	所属	江戸川区立二之江第二小学校
代表者	職 氏名	校長 杉山 勇
	連絡先	03-3687-8031
連絡先	所属	調布市立緑ヶ丘小学校
	職 氏名	校長 鳥居 圭
	連絡先	03-3308-6166

研究主題 新たな価値の創造 ~深い学びの実現を目指して~

I 研究の概要

本研究会では、どのような世の中であっても、その変化に合わせて、 価値や意味を創り出したり、更新したりしていく子供たちの育成を目指 し、生活科・総合的な学習の時間の充実を図る研究を進めていくため に、研究主題を「新たな価値の創造」とすることとした。また、より生 活科、総合的な学習の時間の特質を重視した研究にしていくために、 「深い学びの実現」を副主題とし、それぞれの視点から以下のように分 科会を設定している。

分科会	東京都 小学校 生活科・総合的な学習教育研究会 各分科会の研究主題
A(生活)	深い学びを実現するための環境構成とカリキュラム・デザイン
B(生活)	人との関わりを通して新たな気付きを生み出す指導の工夫
C(生活)	生活科の深い学びを支える表現活動の工夫
D (総合)	質の高い課題更新から始まる深い学び ~子供の熱量が高まるブレークスルー~
E(総合)	学習活動の振り返りと指導の工夫 〜発達段階をふまえて〜
F(総合)	子供の学びの必然性から生まれる多様な表現活動
G (生活·総合合同)	「その時子供が動いた」生活科・総合的な学習の時間の単元 ~「気付き」「探究」の質的向上を目指して~

Ⅱ 実践事例

1【E分科会】7月 11 日 公開研究授業·研究会

板橋区立北前野小学校 西田 雅史 主任教諭

単元名

第4学年 総合的な学習の時間「環境について考えよう」

単元目標

自分たちの住む地域のゴミ問題について、ゴミ問題に関わる地域の 人の思いや願いも捉えながら、友達と協力して自分たちにできること を考え、実践したり、伝えたりすることができる。

本単元における教師の関わり方と児童の振り返り

教師の関わり方と児童の振り返りを研究するにあたり、教師の声かけと児童の振り返りの例を単元計画に示していく。

本時の目標(26時間中の18時間目)

自分たちが住む街をきれいにするために活動して きたことを振り返り、今後の活動方針を決める。



展開

○前時までの学習をふり返り、本時の見通しをもつ。

グループで話し合って、これから何をするのか決めよう。

- ○グループごとに、今後何をするのか話し合う。ポスター 動画 ポスター (ゴミ拾い募集案内)
- ○全体の場でグループで話し合われた内容を共有する。【Y チャート】
- ○本時をふり返り、次時の見通しをもつ。
- ・次は、自分が具体的に何をやるのか決めたい。

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会】

2【C分科会】10月3日 公開研究授業·研究会

世田谷区立世田谷小学校 山田 雅代 主任教諭

単元名

第2学年 生活科「まちを たんけん 大はっけん」

単元目標

地域と関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたり している人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や 場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切 に接したり安全に生活したりしようとする。

単元の価値・児童に期待したい学び

- ・地域の場所やそこで生活したり働いたりする人々へ親しみや愛着を もち、毎日の生活を豊かにしていく。
- ・思いや願いを育て、気付きの質を高める表現活動

本時の目標(34時間中の15時間目)

地域の場所や人々を思い起こし、地域の様子について友達と交流している。

展開

○本時の学習とめあてを確認する。

友だちのはんの、大はっ見ち図を見よう。

- ○班でつくった地図を全員で見合う。
- ・私が書いた八幡様の鯉のことを1班の人も書いているよ。
- ・3 班の人の「何かな」について、ぼくは知っているよ。
- ○学習の振り返りをする。
- ・ぼくの町には、お店やいろいろな場所があるんだね。
- ・私たちの町は、いろいろと教えてくれる優しい人が多いね。
- もう1回探検に行ってみたいなあ。

Ⅲ 今年度の主な取組

今後の活動予定

8/26 夏季研究会 杉並区立杉並第七小学校

お悩み相談室 自由実践発表会 公開論点整理委員会 等

11/10 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

【京都大会】課題別分科会 B分科会研究発表

11/17 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

【群馬大会】課題別分科会 D分科会研究発表

◆冬季研究会(予定)◆

日時:令和6年2月17日(土)9:15~

会場:新宿区立落合第三小学校

※全分科会が今年度の研究について発表します。

本研究会に興味のある方は、ぜひご参加ください。

詳しくは、本研究会HPをご覧ください。

団体名		東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会	
	所属	新宿区立落合第三小学	校
代表者	職 氏名	校長 清水 仁	
	連絡先	03-3565-09	4 1
	所属	八王子市立清水小学校	
事務局	職 氏名	校長 荒井 雄一	
	連絡先	042-625-07	9 5
		URL	二次元コード
団体ホームページ		http://toseisouken.net/	国 列 国 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

研究主題 つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを

I 団体の概要

東京都小学校音楽教育研究会(略称 都小音研)は、昭和33年に発足した研究会である。東京都小学校音楽教育の充実発展を期するとともに、会員相互の研修と親睦を図ることを目的としている。

組織は、各区市町村を単位として構成し、庶務部、会計部、研究部、 調査部、事業部、広報部、ICT部が全体の運営に当たっている。

研究内容は、①小学校音楽教育についての研修並びに調査、②研究会・講演会・講習会・視察等の調整、③個人並びに団体の研修活動についての奨励・援助、④研究物・機関紙の出版、⑤音楽教育諸団体との連絡・提携、⑥その他必要と認められた事業を行っている。

Ⅱ ゾーン単位による研究

本会は、都内の近隣地区で12の研究ゾーンに分け、ゾーン単位で合同研究・研修を行っている。今年度は練馬区、清瀬市、東久留米市、西東京市、小平市で構成される西武ゾーンによって研究を進めてきた成果を発表する。

研究主題:「つかもう 広げよう 生かそう 私たちの音楽!」

- ・つかむ:児童が課題を見いだし、題材を通して課題意識を持続させながら、見通しをもち、粘り強く学びを進めていく。音や音楽との出会いの中で、児童が課題を見いだし、自分自身のめあてをもって課題解決に向かうようにする。
- ・広げる:友達と協働して学び、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを通して、理解を深めたり考え方や感じ方を広げたりする。

その際、児童が音楽活動を通して、「音楽的な見方・考え方」を 働かせ、自分なりの気付きや考えをもち、課題解決への糸口を見 いだすようにする。

・生かす:学んだことを次の学びや生活に生かす。題材全体や毎時間の学習を通して、学びの振り返りを充実させ、児童が自己の変容を自覚し、学んだことの意義を実感できるようにし、次の学びや生活に生かすようにする。

○研究内容

視点1 課題を見いだし、解決に向かう主体的な学びの実現

視点2 考え方や感じ方を広げ、課題解決につなげる協働的な 学びの実現

視点3 学んだことを実感し、次の学びや生活に生かす深い学び の実現

○研究方法

- 授業研究及び協議会
- 研究演奏
- 研究発表

第66回 研究大会 西武ゾーン大会

日時:令和6年1月26日(金)

午前9時20分から午後4時30分まで

会場:学校法人 日本文華学園 文華女子高等学校

内容:研究演奏2本、研究授業6本、研究発表

講評・講演

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都小学校音楽教育研究会】

Ⅲ 各種研究会

10 の各種研究会が活動し、それぞれの特色を生かして研究を進めている。

• 指揮法研究会

• 編曲研究会

• 合唱研究会

・音楽授業研究の会

• 管楽器研究会

• 合奏研究会

• 即興表現研究会

• 鑑賞指導研究会

• 邦楽教育研究会

• 電子楽器研究会

活動内容: 実技研修、楽曲分析、楽譜

· 検討、学習指導案の検討、授業研究、

: 楽器の奏法や指導方法の研究等

研究成果発表

○合唱祭:令和6年2月23日(金·祝)、 2月25日(日)

(会場) 府中の森芸術劇場

○管楽器演奏会:令和6年2月18日(日)

2月24日(土)、2月25日(日)

(会場) 武蔵野市民文化会館

Ⅳ 児童作曲コンクール

児童作品を公募し、発表・奨励することにより、音楽教育の向上 を図ることを目的として行っている。課題詩の部と自由作品の部が あり、各部の作品を募集している。

第1次審査、第2次審査を経て、入選した作品は表彰し、「入選 作品集」に掲載する。

○授賞式・入選作品演奏発表会 令和6年2月9日(金)(会場)カスケードホール

Ⅴ 調査

都内の公立小学校全校を対象とし、7月に、各地区の研究内容及び各校の卒業関係の取組について調査を実施した。(回答は任意) ○調査結果

・ 各地区の研究内容について

歌唱:36 地区、器楽:22 地区、音楽づくり:20 地区

鑑賞:17 地区

・各校の卒業関係の取組について

(1)過去3年間の卒業式で卒業生が歌った歌 「旅立ちの日に」「最後のチャイム」「絆」等

(2)過去3年間で在校生が歌った歌 「明日へつなぐもの」「旅立ちの日に」「大切なもの」等

(3) 卒業式で在校生が演奏した入退場局 「威風堂々」第1番「蛍の光」「パッヘルベルのカノン」 「生命の息吹」等

(4) 6年生を送る会や謝恩会などでの音楽の取組

団体名		東京都小学校音楽教育研究会	
	所属	世田谷区立八幡小学校	
代表者	職 氏名	校長 峯岸 敦子	
	連絡先	03-3721-8991	
	所属	東三鷹学園三鷹市立北野小学校	
事務局	職 氏名	校長 山根 まどか	
	連絡先	0422-47-0551	
団体ホームページ		https://www.tosyouonken.com	

研究主題「子供×発見」子供『が』発見する図工の授業・子供『を』発見する教師の目・子供『と』発見する多様な図工の価値 目指す児童像「自分の感覚で発見することを楽しむ子」

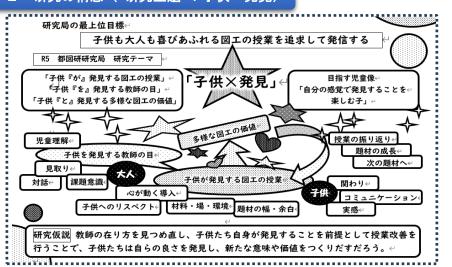
I 団体の概要(通称:都図研・tozuken)

都図研とは?□東京都図画工作研究会の略称。

東京都各区市町村の教育研究会図工部員、及び新たに東京都公立小学校の図工専科の集合体が、「東京都図画工作研究会(略称:都図研)」である。全国組織「全国造形教育連盟(略称:全造連)」や「全国小学校図画工作教育連盟(略称:全小図連)」、また、「関東甲信越静地区造形教育連合(略称:関ブロ)」の構成団体でもあり、他府県との造形交流、他校種との交流も継続している。全国に約1800人いる図画工作専科教諭の約1300人が都図研の会員。昭和23年(1948年)に結成され、2008年度で創立60年を迎えた。毎年1回、全8ブロック地区構成からなる都図研大会を開催。自主的で自由な精神を伝統に研究活動を継続している。

都図研の最新情報は『都図研公式 Web https://tozuken.themedia.jp』で発信中!

Ⅱ 研究の構想 (研究主題:子供×発見)



Ⅲ 研究の目的・内容

研究構想図にある最上位目標「子供も大人も喜びあふれる図工の授業を追求して発信する」とは、OECDの「ラーニング・コンパス 2030」でも取り上げられている「ウェルビーイング」という概念から、子供だけでなく大人にも必要なものだと考え、「子供も大人も」と設定した。研究主題「子供×発見」は、「子供『が』発見する授業づくり」「子供『を』発見する教師の目」「子供『と』発見する多様な図工の価値」という視点を包括している。子供は図工の授業だけでなく、日常生活の中でたくさんの「初めて」に出会う。図工の授業を通じ、多様性を育みながら豊かに成長して欲しいという教師の願いの実現に向け、子供たちにとっての「初めて」の場をどのようにつくり提案するかを今年度の研究の核とした。『教師の在り方を見つめ直し、子供たち自身が発見することを前提として授業改善を行うことで、子供たちは自らの良さを発見し、新たな意味や価値をつくりだすだろう。』という研究仮説の下、研究授業での視点を3つ設定した。

★視点①「子供『が』発見する」

学びの主体はあくまで「子供」である。教師主導型・師範型・講義型のトップダウン型の授業ではなく、ボトムアップ型の授業づくりを構築する。子供が「形や色、ものやことに対する造形的な実感」や「自他の表現の価値」を発見できる授業を提案する。

★キーワード:子供へのリスペクト・心が動く導入・言葉・場の設定・題材の幅・

余白・実感・関わり (人・もの・こと・環境)・コミュニケーション・身体性

|★視点②「子供『を』発見する教師の目」

一人一人の子供に対しての児童理解を基に、多くの対話を通して、子供が自分の思いを見付けるひらめきの瞬間、感動する瞬間、新たな価値を見付けた瞬間などについて、教師が子供の活動を的確に「見取り」、教師自身の感度を高める。目に見えるものだけではなく、子供の内側にあるものを汲み取ったり、その子にとって意味のある造形的な活動を価値付けたりしながら、

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都図画工作研究会】

Ⅲ 研究の目的・内容(つづき)

一人一人の造形活動から見える教師側の課題意識や児童理解を大事にする。

★キーワード:対話・児童理解・目に見えないもの・今の社会、子供への課題意識

★視点③「子供『と』発見する多様な図工の価値」

「子供の学びを基にした題材の価値」とその先にある「図工の可能性(学習指導要領のその先へ向かう)」を発見したい。子供の学びを基にした題材の価値は、課題意識を基に行った授業実践を振り返り、子供の姿を捉え直すことで見えてくるものである。実践とねらいの整合性を検証し、教師自身が常に授業内容の振り返りを行い、その結果として図工という教科全体の多様な価値が新たに生まれていくと考える。授業の中で子供たちが見付け出す価値(=図工の新たな価値)を、教科研究を通じて発見する。

★キーワード:図工の未来、子供の未来

※研究局による成果と課題は、年度末発行の「都図研報告書」にて公開する。(発行:令和6年3月末)

Ⅳ 団体の取組み(令和5年度)

●令和5年度 東京都教育委員会研究推進団体支援事業・実技研修会 『絵に表すについて考える』 **研修テーマ 「図工で培う力を考える」**

-子供が感性を働かせ、自分の力でつくりだそうとする図工の授業改善- (指導と評価)

子供たちの『絵に表す』活動の始まりや過程を「感じたこと想像したことから表す」「見たことから表す」「材料や用具から思い付いたことを表す」の3つの視点で見つめ直すことで、どのような力を発揮しているのか、その学びや子供と絵との可能性を探ってく実技研修会を実施した。第1部では、参加者が、低・中・高学年の発達段階に応じた学びのつながりを考えたり、グループトークで様々なアイデアや考えに触れ、自分の実践等についても振り返りをしたりするなど学びを深め合った。第2部の全体会では、元都図研会長から「絵に表す」をテーマにした講演会を実施した。









V 研究大会:北多摩大会(令和5年度)

●第61回 北多摩大会 テーマ「図工の冒険 -一人ひとりの一歩から

ラピラア大会 図Iの屋 -人なとりの一歩から

日時:令和5年12月8日(金) 9:00~16:45

会場:立川市立第一小学校

子供は、図工の時間に体全体の感覚を生かして、わくわくしながら対象や事象と触れ合い、自分のイメージを広げて活動を展開する。子供が勇気をもって新しい世界に一歩踏み出し、自分なりの価値を見付けていく姿を、「図工の冒険」とした。北多摩ブロック開催での第61回東京都図画工作研究大会では、北多摩17市で、沿線ごとに研究局を発足し、「第1分科会:子ども軸」「第2分科会:発見」「第3分科会:夢中」「第4分科会:探求」計4つの分科会で研究を進め、授業の中で子供の冒険する姿を検証しながら、議論を重ねてきた。

子供がものと触れ合い、自分のイメージの世界を駆け巡りながら、まだ見ぬ新しい世界をつくること。新たな価値の創造、新たな友達への気付き、そこから見えてくる自分らしさへの探求、発見など、図画工作通じて自分の世界を冒険し、未知の世界を切り開いていく力を培う授業を提案する。大会では、子供一人一人が踏み出した挑戦のプロセスを大事にできる授業と基調提案、文科省教科調査官による講演を実施。大会研究の成果と課題は、年度末発行の「都図研報告書」にて公開する。 (下記、二次元コードからも研究の経過を公開)

、は相の十次を相が			
団体名		東京都図画工作研究	会
	所属	世田谷区立船橋小学	单校
代表者	職 氏名	校長 奥長 英樹	
	連絡先	03-3482-2367	
	所属	千代田立和泉小学校	
事務局	職 氏名	主幹教諭 堀江 美	由紀
	連絡先	03-3866-3939	
		URL	二次元コード
団体ホームページ		https://tozuken.themedia.jp	

研究主題 よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

I 研究主題について

今後の社会を担う子供たちには、家族・家庭生活や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、社会の急激な変化に対応できる力が求められている。一人一人が自立し、家族や地域の人々とともに支え合い、よりよい生活を創造することが必要である。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎に必要な力として、小学校家庭科では、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指している。

日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決するために、知識・技能を身に付け、それらを活用する学習過程において、家庭科ならではの「見方・考え方」を働かせて、思考・判断・表現することが重要となる。これらは家庭生活を大切にする心情や、家庭や地域の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度が土台となっている。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎として家庭科教育の果たす役割の重要性を自覚し、家庭科における「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、家庭科教育をさらに充実・発展させていく必要性を感じている。そこで研究主題を「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」とした。







【江戸川区研究授業】

【港区研究授業学習シート】

Ⅱ 研究構想

以下のように構想し、授業研究に取り組んだ。

研究のねらい

生活をよりよくするために、既 習の知識及び技能や生活経験を 基に日常生活の中から問題を見 いだして課題を設定し、解決す る力を養い、主体的に実践する 子供を育成するための指導の在 り方を研究する。

目指す児童像

- ○日常生活に必要な基礎的な知識 及び技能を身に付けている子
- ○日常生活の中から問題を見いだし て課題を設定し、工夫し解決する子
- ○家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子

見付け、身に付け、未来につなごう

研究の視点

児童の系統的な学びを支える指導計画 (カリキュラム・マネジメント)

- ○育成を目指す資質・能力の明確化○各題材における基礎的・基本的な
- 知識及び技能の明確化と顕材配列の工夫 〇曲教科等との関連を図った指導計画
- 〇小中5学年間を見通しだ指導計画

家庭や地域との連携・協働

- ○家庭・地域との関わりを深めるための学習 活動の充実
- ○家族の一員として継続して実践する児童 を育てる家庭連携の工夫
- 〇地域の人材や教材の開発

主体的・対話的で深い学びの 実現に向けた授業改善

- 〇学習過程における学習指導の工夫
- 〇言語活動の充実
- OICTを活用した投業の工夫
- 〇実践的・体験的な活動の充実
- 〇個に応じた指導の充実

学びの成果を次の学習へと つなげる評価

- ○資質・能力に沿った評価計画の作成○成長を実施できる評価の実施
- ○児童の思考の過程を把握し、評価する 方法の開発

Ⅲ 研究の内容

*公開授業

○令和5年10月4日(水) 江戸川区

第6学年「経験から習慣へ 物やお金の使い方2」

~C(1)「物や金銭の使い方と買物」の指導の工夫~

授業者 江戸川区立第四葛西小学校 佐古 真由美 教諭

講師 元帝京大学大学院教職研究科 教授 小関 禮子先生

○令和5年10月11日(水) 西東京市

第5学年「食べて元気に ごはんとみそ汁」

~B(1)「食事の役割」(2)「調理の基礎」の指導の工夫~

授業者 西東京市立谷戸第二小学校 丸山 和大 教諭

根本 紀子 主任栄養教諭

講師 元東京都小学校食育研究会会長 宍戸 鈴子先生

○令和5年12月6日(水) 港区

第6学年「こんだてを工夫して」

~B(1)「食事の役割」(3)「栄養を考えた食事」の指導の工夫~ 授業者 港区芝浦小学校 石澤 美智子 主任教諭

深沢 啓介 学校栄養士

講師 全国小学校家庭科教育研究会 元会長 藤原 孝子先生

*全国小学校家庭科教育研究会 全国大会 神奈川大会にて地区発表

◇北区立小学校教育研究会家庭科部 「ミシンでソーイングⅡ |

~B(5)「生活を豊かにするための 布を用いた製作」の指導の工夫~









【正方形の布から作った作品】

Ⅳ 研究の成果と課題

- 1 本研究の成果
- ○3地区の授業研究会を通して、各地区における家庭科の研究を深める ことができ、その他の地区へ家庭科の指導について啓発することがで きた。
- ○主任栄養教諭や学校栄養士とのTTにより、専門性の高い指導から児 童の学びが深い学びとなり、思考を広げ深める姿が見られた。
- ○買物の学習では、協働的な学びにより、共感・発見・気付き・驚きなどが多く見られた。実生活に生かすことが期待できる。
- 2 本研究の課題
- ●消費者教育では、ライフステージに応じて、育てたい態度を明確にして繰り返し指導していく必要がある。
- ●学習評価について、評価方法を行動観察とした場合は、具体的な視点 を明確にして見取るようにする。
- ●家庭科を指導する多くの教員に授業研究会や研究発表会に参加しても らい、実践内容を還元できるようにしたい。

<連絡先>

団体名		東京都公立小学校家庭科研究会	
	所属	大田区立赤松小学校	
代表者	職 氏名	校長 飯島 典子	
	連絡先	03-3729-0986	
事務局	所属	文京区立青柳小学校	
	職 氏名	校長 村上 律子	
	連絡先	03-3947-2471	

研究主題 互いに学び合い、自らの学びを深めていく体育学習

~ 研究の重点 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る体育学習の在り方の追究 ~

東京都小学校体育研究会について

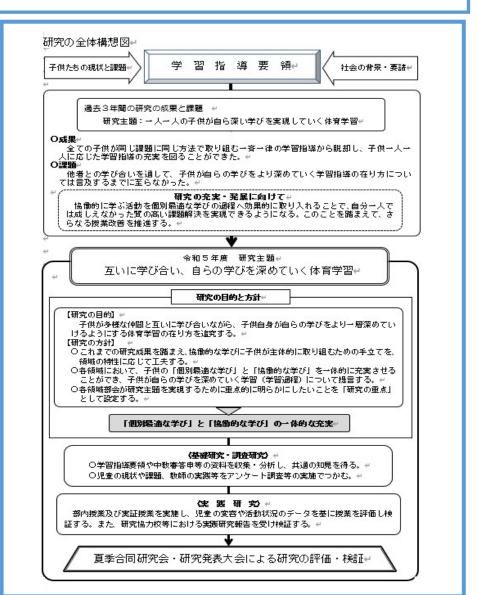
東京都における小学校の体育研究の振興を図ることを目的とした研究団体であり、小学校体育科における今日的な教育課題について、授業実践をもとに検証を行い、研究成果の普及を行っている。また、区市町村教育研究会(体育)等の研究団体とパートナーシップを構築し、双方向の議論によって相互の研究の充実に取り組んでいる。

研究主題について

令和4年度までの研究では、個に応じた指導の徹底的な追究と、与 えられた課題に子供たちが同様に取り組む一斉一律の課題解決的な学 習を改善することを重点とし研究を推進した。その成果を、「子供が 自ら深い学びを実現していく体育学習の在り方に関する6つの提言」 にまとめた。

一方で、他者との学び合いを通して、子供が自らの学びをより深めていく学習指導の在り方に言及するまでには至らなかった。「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」が求められる中、子供が自ら協働的に学習活動に取り組むことができるようにするための手立てを明らかにする必要がある。

そこで、子供が多様な仲間と互いに学び合いながら、子供自身が自 らの学びをより一層深めけていけるようにする体育学習の在り方を追 究することを目指し、本主題を設定した。



【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都小学校体育研究会】

研究の方法

- ① 10 の研究領域部会による年間を通した研究活動の実施
- ② 各研究領域部会による継続的な授業改善と実証授業の実施
- ③ 夏季合同研究会(8月)による研究協議の実施
- ④ 月1回開催の正副部長会における情報共有と研修の実施
- ⑤ 研究発表大会の実施(2月)、研究集録(2月)や会報(年2回)の発行による研究成果の普及

実証授業

第1学期から部員による授業研究を継続的に実施し、第2学期に 一般公開による実証授業を行い、授業の中での子供の姿に基づいて 成果と課題を導き出す。

実証授業の実施内容

- □多様な動きをつくる運動遊び部会
 - … 第1学年 体のバランスをとる運動遊び及び用具を操作する運動遊び
- □体の動きを高める運動部会
 - … 第5学年 体の柔らかさ、巧みな動き及び力強い動き を高めるための運動
- □器械運動系領域部会 … 第5学年 マット運動
- □陸上運動系領域部会 … 第4学年 小型ハードル走
- □水泳運動系領域部会 … 第6学年 クロール、平泳ぎ他
- □ゲーム領域部会 … 第2学年 ボールゲーム
- □ボール運動領域部会 … 第6学年 ベースボール型
- □表現運動系領域部会 … 第2学年 表現リズム遊び
- □保健領域部会 … 第5学年 心の健康

研究のまとめに向けて

- ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る学習過程に ついて提言する。
 - 「課題解決型の学習過程」を基本とする。
 - ・子供が自ら学習課題を見いだし、自分に合った方法で解決に取り 組まっ
 - ・仲間と学び合う必要性を子供が実感する。
 - ・個別最適な学びと協働的な学びが往還する学習活動に取り組む。
- ○上記の学習過程によって、子供が自らの学びを深めていけるように するための手立てを提言する。

研究発表大会の開催

令和5年度東京都小学校体育研究会 研究発表大会

令和6年2月22日(木) 午後1時10分から午後4時45分まで

区 部 会 場:北区立滝野川第五小学校 多摩地区会場:日野市立日野第八小学校

団体名		東京都小学校体育研究会		
	所属	江戸川区立船堀小学	全校	
代表者	職 氏名	校長 山下 靖雄		
	連絡先	03-3680-61	0 1	
	所属	日野市立日野第八小		
事務局	職 氏名	校長 船山 徹		
	連絡先	042-591-24	111	
		URL	二次元コード	
団体ホームページ		https://www3.schoolweb.ne. jp/swas/index.php?id=13500 06		

研究主題 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

団体の概要

昭和37年に発足した本会は、今年、結成61周年を迎える。東京都の道徳教育の推進並びに会員相互の研鑽を図ることを目的とし、215名の会員が力を合わせて研究に取り組んでいる。

研究のねらい

今までの行動規制がかかる感染症対策下の生活の影響で、児童は好きなことや興味のあることに夢中になって取り組むことが難しい状況が続いている。自らの力ではどうすることもできない閉塞感の中にいる児童に対し、それでも「人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か」「自分はどのように生きるべきか」等について正面から向き合わせてその考えを深め、自らの生き方を育んでいくようにさせたいと強く願う。

今年度も学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と道徳科との共通の目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」をそのまま研究主題とし、「よりよく生きること」について真っ直ぐに向き合わせたい。

道徳科の特質を踏まえたよりよい道徳授業づくりを行う「深める」ということと、都内公立小学校に分かりやすく道徳授業を普及啓発する「広める」という役割を自覚し、各区市町村の道徳教育研究会と連携をとりながら、東京都の道徳教育を推進していく。

研究の内容

研究部 研究主題や副主題について、論理的分析を図りながら 授業実践を行い、研究を深めていく。

研修部 授業研究を通して、よりよい指導方法や評価の在り方 について授業実践を通して広めていく。

<u>調査部</u> 児童の意識、指導の工夫、評価等に関する調査の結果を 基に授業研究を行い、効果的な指導法を探る。

<u>事業部</u> 多摩地区における各市町村の道徳教育研究会と連携して研究会や研修会を行い、道徳教育の推進に努める。

「研究授業での検証が都小道研の生命線である」ということを合言葉に、さらに、会計部、総務部、庶務部、渉外部、広報部の各部が研究活動を支え、組織的な研究活動に取り組んでいく。加えて本年は7年ぶりの関東地区小学校道徳教育研究大会東京大会の節目の年である。各部の役割の認識をより一層鮮明にして連携を深め、全体の結束を高めつつ、都小道研の研究活動の統一感を図り、研究内容を一都六県へ広く浸透させていく。

成果と課題

《成果》第57回関東地区小学校道徳教育研究大会東京大会を中野区立令和小学校で多数の参会者を迎えて開催した。 《課題》今後、今大会の経験を都小道研各部の運営や研究に活かし、研究活動を積極的に広げ深めるようにする。

令和5年度の 都小道研の主な事業

<第57回 関東地区小学校道徳教育研究大会 東京大会>

令和5年12月1日(金)に、中野区立令和小学校を会場に、7年に1度巡ってくる東京大会を盛大に開催した。当日は、関東一都六県以外に、青森、新潟、愛知、鳥取、島根、山口、福岡、沖縄からの参会者もあり、総数は400名を超えた。大会主題「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」について、互いに深め合う1日とすることができた。

当日は、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 堀田 竜次 様、東京都教育庁指導部義務教育指導課主任指導 主事 窪田 香 様をはじめ、東京都教職員研修センター、中野 区教育委員会、東京都中学校道徳教育研究会、中野区小学校長 会・中学校長会・幼稚園長会・小学校教育研究会・中学校教育 研究会・小学校PTA連合会、公益財団法人上廣倫理財団の代 表の皆様、令和小学校年間講師・講師、学校評議員・学校評価 委員、全小道研・都小道研顧問の皆様など多くの御来賓の御臨 席により、本大会に花を添えていただいた。

公開授業では、特別支援学級4学級を含む全26学級のうち、 都小道研各部から7名が、授業者として研究内容を生かした 授業を展開した。他の学級では、年間講師・講師からの御指導 を反映した道徳科の特質を生かした確かな指導観に基づいた 学習指導過程が一つ一つ丁寧に作り上げてあり、参会者が大 きくうなずきながら授業参観している姿が印象的であった。

課題別分科会では、東京都と他の6県が6つの分科会に分かれ、12種類の提案をもとに熱心に協議を行った。最後には、助言者から御指導いただき、総括することができた。参会者がそれぞれの勤務地に戻り、道徳教育の発展に寄与する一助となる大会であった。

〈関東地区小学校道徳教育研究大会東京大会 記念講演会〉

関東地区東京大会当日、公開授業、課題別分科会に続き、記念講演会が体育館にて行われた。講師に文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 堀田 竜次 先生をお迎えし、大会主題と密接に関連する「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の推進・充実」という演題で記念講演をいただいた。

令和の日本型教育と道徳教育の関連や道徳科の目標、道徳性の捉え方等の内容から始まり、これまでやや難しく聞こえていた文言等についても、一つ一つ丁寧に分かりやすく解説を加えていただいたことにより、参会者の理解が深まった。

堀田教科調査官の終始、柔和な表情で心から表現されるお言葉は、大変示唆に富み、今後の参会者一人一人の研究・実践意欲を大きく湧き立てる素晴らしい内容であった。

団体名		東京都小学校道徳教育研究会	
	所属	中野区立令和小学校	
代表者	職 氏名	校長 松井 敏	
	連絡先	03-3389-14	6 1
	所属	江戸川区立上小岩小学校	
事務局	職 氏名	校長 宮本 知言	7
	連絡先	03-3672-18	865
		URL	二次元コード
団体ホームページ		https://www.toshodo.com/	□ 12 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

研究主題 よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

I 研究の目的

1 特別活動の指導方法の研究

本研究会は、東京都教育委員会の研究推進団体として、昭和37年の 設立以来、特別活動の研究・発展に努めてきた。

学級活動部、児童会活動部、クラブ活動部、学校行事部の4研究部会で構成され、それぞれの研究部会ごとに研究授業を行い、より質の高い、実践的な特別活動の授業のあり方を追究し、その成果を研究発表大会や研究紀要で発信してきた。

2 特別活動のよさを広める

本会は、その時代の要請に即した特別活動の指導方法を東京都の教員に示し、そのよさを広めてきた。昨年度、創立 60 周年を迎えた本会の歩みは、昭和 39 年度の第 1 号発行以来、毎年発刊している研究紀要に記されている。本会ホームページ(https://tosho-tokkatsu.tokyo)より、第 1 号以降の研究紀要(欠号あり)を閲覧・ダウンロードできる。



Ⅱ 研究の方法

1 研究組織 部員は有志の東京都の小学校教員で構成されている。



2 研究授業による検証

本研究会の特色は、4つの研究部会(学級活動部・児童会活動部・クラブ活動部・学校行事部)が、共通の研究主題の下、仮説・主題に迫る手だてを「研究授業」を通して検証し、その成果・課題を次年度の研究につなぐ形で積み重ねてきたことにある。

新型コロナウイルス感染症の流行期は、「研究授業」を行うことができなかったが、令和3年度より感染防止に努めながら、「研究授業」を再開し、今年度は、各研究部会が2回の「研究授業」を実施した。

Ⅲ 研究の内容

1 研究主題

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動

2 主題設定について

特別活動において育成することを 目指す資質・能力は、3つの視点(人 間関係形成、社会参画、自己実現)を 特別活動において育成すること 手掛かりとしながら育んでいくこと が求められている。また、その3つの のよりよい集団を のなりたい自分に 視点は切り離せない相互関係にある

ことから、令和2年度より研究主題を

人間関係形成

◎みんなとともに生 きていく力の育成

学習指導要領の目標(1)(2)(3)

を目指す資質・能力

つくろうとする 力の育成 向けてがんばる 力の育成

社会参画

自己実現

「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動」と 修正し、3つの視点を関連させながら、学級活動・児童会活動・クラブ 活動・学校行事において研究を深めてきた。

3 研究計画

- (1) 令和元年度…仮説に基付く授業実践
- ○各活動、学校行事における「自己実現」を明確にし、共通理解を図る。
- (2) 令和2年度…理論構築
- ○1年目の研究を踏まえ3つの視点を関連付け、 育成する資質・能力について共通理解を図る。
- (3) 令和3年度…理論・仮説の検証(1年目)
- (4) 令和4年度…理論・仮説の検証(2年目)
- (5) 令和5年度…理論・仮説の検証(3年目)
- ○この研究主題による研究の最終年度である。
- ○理論・仮説の検証のための研究授業を実施する。
- ○汎用性、再現性のある指導方法を提案する。



Ⅳ 成果と課題

1 成果

- ○4研究部会において、目指す児童像を「人間関係形成」「社会参画」 「自己実現」の3つの視点で設定することで、そのための手だてとの 関連が明確になり、手だてによる児童の変容を見取りやすくなった。
- ○ICT 機器の活用により、効率的な意見集約、活動のめあての共有化 など、授業の質を高めることができた。
- ○各研究部会において、手だての汎化を目指すことで、より洗練され た汎用性のある手だてへと改善を重ねることができた。

2 課題

(1) より汎用性のある手だての提案

本研究会は、特別活動の指導方法の研究し、広く東京都の教員に伝 え、指導の改善を促すことが使命の一つである。この研究主題におけ る研究の最終年度であることから、誰もが取り組み、成果を上げるこ とができる、より一般化・汎用性のある手だての提案を行う。

(2) 来年度の研究主題の作成

今年度の研究をまとめながら、来年度以降の研究主題の設定を行 う。次期教育振興基本計画等を参考にし、これからの時代に求められ る特別活動のあり方について、議論を重ね、研究主題を作成する。

〈連絡先〉

代表者	団体名	東京都小学校特別活動研究会	
	所属	世田谷区立芦花小学校	
	職・氏名	校長 石田 孝士	
	電話	0 3-3 3 0 3-3 3 0 1	
事務局〈庶務部〉	所属	大田区立おなづか小学校	
	職・氏名	校長 酒井 敬子	
	電話	0 3-3 7 5 3-2 6 1 5	
ホームページ	https://tosho-tokkatsu.tokyo		
メール	<u>info@tosho-tokkatsu.tokyo</u>		

研究テーマ 全ての子供と教師がプログラミングを楽しむ東京都にする ~GIGA 端末の普段使い 明日の1歩~

I 団体の概要

「東京都小学校プログラミング教育研究会」は、東京都内小学校におけるプログラミング教育普及と充実を図り、教職員の資質向上に寄与すべく、東京都プログラミング教育推進校の教員をはじめとした都内の教職員が中心となって発足した研究会である。研究推進団体として認可され、活動を進めてきた。

Ⅱ研究のねらい

身近なもの・ことにプログラミングが関わっていることをコンピュータを用いて体験的に理解し、活用する楽しさを実感させる。

Ⅲ研究の内容

- ・プログラミング教育の研究
- (公開授業・教材研究など)
- ・資料作成や教材研究、教材体験、実践授業など
- ・プログラミング教育関連の情報発信(HP参照)

前期は講演会や研修・指導案検討会など、実践に向けて学んだ。 後期は公開授業・事例発表、研修会を実施した。

※詳細は「IV 授業公開」「V 研修会」を参照

Ⅳ 授業公開

公開授業① 特別活動「プログラミングランドを開催しよう」 (授業者:安藤 睦 主幹教論)

クラブ活動を通して、個性の伸長を図り、学年や学級を越えた人間関係をよりよく形成したり、協力して目標を達成したりすることをねらいとして活動した。

- · 目時 9月25日 (月) 14:30~16:30
- ·会場 世田谷区立東玉川小学校
- ・講師 特定非営利活動法人みんなのコード 竹谷 正明 先生







公開授業② 第6学年 国語科「熟語の成り立ち」

(授業者:野村 徹也 教諭)

スクールタクト、「きょうしつでビスケット」 (ビスケット有料版) を活用して学習した。

- ※港区教育研究会小学校情報部の高学年部会提案授業を兼ねて実施
- · 目時 10月11日 (水) 13:45~16:30
- •会場 港区立高輪台小学校
- •講師 明星大学 教育学部 教育学科 准教授 今野 貴之 先生

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都小学校プログラミング教育研究会】

Ⅴ 研修会

○プログラミング教育 明日会議2023(令和5年8月4日)

今年度は、児童がプログラミングを体験する機会をつくろうと、午前中に児童向けのワークショップを行なった。他の団体・企業等と連携してワークショップを担当したり、実際に活動する様子を見たりすることで、教員側にとってもよりよい活用方法を学ぶ機会になった。

(詳細) https://edtechzine.jp/article/detail/10217

○連携研修(令和5年8月22日(火)・9月15日(金))

東京都教職員研修センターと連携して研修を実施した。今年度は、 全2回で行い、概要・事例発表・実技研修に加え、授業参観をする機 会をつくることができた。



VI 研究の成果と課題・今後の活動予定

【成果】研修会や授業公開、東京都教職員研修センターと連携した研修、事例発表をとおし、参加者が実践を知る機会をつくることができた。今年度から会員も多く、意欲的に研修・実践をしている。

【課題】一人一台のGIGA端末が導入され、よりよい活用方法を模索している各地域・学校も多いと予想される。また、中学校・技術科との連携が求められる。中・長期的な視点での取組も必要である。

【今後の活動予定】授業研究に加え、各地域の研修・授業支援や 児童向けのワークショップを行う。プログラミング教育について 実践の波及と資質の向上の両輪で研究に取り組む。

団体名		東京都小学校プログラミング教育研究会	
	所属	杉並区立方南小学校	
代表者	職 氏名	校長 竪山 浩人	
	連絡先	03-3322-7661	
	所属	杉並区立沓掛小学校	
事務局	職 氏名	主任教諭 鈴木 康晴	
	連絡先	03-3390-4158	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		https://sites.google.com/v iew/tokyo-programming/	

研究主題 広げよう! 人とのかかわり 豊かな心 ~児童文化手法を活用して~

I 団体の概要

東京都小学校児童文化研究会は、昭和35年に発足した。以来、長年にわたり、豊かな創造性や人間性を養うため、楽しい授業づくりの研究を行ってきた。具体的には、児童文化手法を用い、児童の興味・関心を引き出しながら、集団活動の楽しさや素晴らしさを体験させることをねらいにして実践を積み重ねてきた。

今年度は、以下の組織により、専門性を発揮しながら実践研究を 行っている。

- 1. 学校劇部 2. 童話部 3. ダンス部 4. パネルシアター部
- 5. 総合表現部 6. ゲーム部

Ⅱ 研究主題について

研究主題を達成するために大切なのは、コミュニケーション能力の育成である。児童文化手法には、こうした力を高める実践が様々ある。児童一人一人が自己表現を行いながら、学級や学年・班で一つの劇を完成させる「学校劇」や「劇あそび」の手法、教師が自分の得意表現分野を生かして授業を創る「総合表現」や「ゲーム」の手法である。これらの手法により、友達とともに創り上げる達成感や楽しさの共有体験を味わわせ、友達同士の「関わり合い」を深め、豊かな学級集団を育てることができる。また、授業の導入や展開時に「遊び」的な要素を取り入れ、児童の学習への興味・関心を引きつけることも児童文化手法の重要な要素である。紙芝居や挿絵をさらに工夫した「パネルシアター」や、素話を用いながら教材の

世界に引き込む「童話」の手法、また、「ダンス」を行うことにより身体全体で表現する手法は、児童に学習の楽しさを味わわせ、その「心地よさ」が更に児童の「学びへの意欲」を生み出す。こうした実践の中で、「児童の心をつかんで離さず、学びに結びつける授業づくり」を目指している。

以上のように、児童文化手法を活用した授業を実践することで、児童のコミュニケーション能力が向上し、周りの人との関わりが豊かになり、「主体的・対話的で深い学び」が可能となるであろうと考え、昨年度に引き続き本研究テーマを設定した。

Ⅲ 年間計画

- 実技研修会(年2回) 会場:品川区立浅間台小学校
 - R5. 8. 5 第 1 回学校劇研修会
 - R5. 8. 7 第 2 回学校劇研修会
- 公開授業 (年3回) 会場:練馬区立関町北小学校
 - · R5. 9. 13 第 1 回公開授業

劇団によるコミュニケーション育成実践授業

• R5.10.25 第2回公開授業

「ゲーム手法」を使った授業

• R5.11.22 第3回公開授業

「総合表現」を使った授業

〇 研究発表会

• R6. 2. 16 会場:練馬区立関町北小学校

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都小学校児童文化研究会】

Ⅳ 実技研修会

夏季休業中に、児童文化手法を用いた学校劇について研修会を行った。各学校で行われている学芸会や学習発表会について、それらの基本的な進め方、児童の動きを引き立たせる演出や効果的な舞台設備の活用に関する講座、実際の脚本を舞台化する講座を2日間行った。2日間で約80名の教員が参加した。

一つの脚本を演劇として上演するためのプロセスには、一定の 決まりが存在することを確認するとともに、参加した先生方が演 劇の指導法を学ぶことができた。内容については以下のとおりで ある。

- ・ 脚本講座「西遊記」 (中学年向け劇)
- ・ 脚本講座「消えた少年」(高学年向け劇)
- ・ 学芸会のためのスタッフワーク講座

V 公開授業研究

児童文化手法を用いた公開研究授業を年3回実施した。

○ 第3学年授業 学級活動「コミュニケーションって? ~体と言葉で伝わる伝わる~」

 ゲストティーチャー
 劇団「アートイン Asibina」

 小西
 柾輝先生

内容:「劇表現」を用いたコミュニケーション能力の育成

○ 第5学年授業 学級活動「教室ゲームで楽しく学ぼう」 授業者 東京都小学校児童文化研究会

顧問 福田 豊先生

内容:「ゲーム手法」を用いた児童が熱中する授業づくり

○ 第2学年授業 学級活動「ほめ日記の書き方をおぼえよう」 授業者 江戸川区立葛西小学校

主任教諭 久保 恵津子先生

内容:「総合表現手法」を用いた児童の自己肯定感の育成

VI 研究発表大会

研究主題「広げよう! 人とのかかわり 豊かな心」 ~児童文化手法を活用して~

第36回 全国公立小学校児童文化研究会研究発表大会

第 58 回 東京都小学校児童文化研究会研究発表大会

1 日時・場所

令和6年2月16日(金)13:00~ 練馬区立関町北小学校

- 2 内容
- 公開授業(10 学級)
- 実技研修会(学校劇・童話・ダンス・総合表現・パネルシ アター・劇団「アートイン Asibina」・学校劇と話し方)
- 記念講演

講師:歌手 木山 裕策(きやま ゆうさく) 氏

<令和5年度連絡先> 団体名 東京都小学校児童文化研究会 所属 葛飾区立南綾瀬小学校 職 氏名 代表者 校長 宮内 和彦 連絡先 03 - 3602 - 9597所属 品川区立浅間台小学校 職 氏名 事務局 校長 髙橋 健一 連絡先 03 - 3474 - 2727

研究主題 「小学校における性教育の在り方・進め方」 ~多様性を認め合える児童の育成を目指して~

Ι 団体の概要

小学校における性教育の在り方・進め方について研修会や研究授業を通して研究を推進している。また、性教育に関する情報共有や課題解決にも取り組んでいる。

Ⅱ 研究の目的

近年の子供たちを取り巻く環境の変化に伴い、実態や課題に応じた性を含めた心身の健康に関する指導の重要性が高まっている。

子供たちが性に関する正しい知識を身に付け、適切な意思決定や行動選択ができる力を育むための指導方法の工夫を明らかにすることを目的とし研究を行う。

今年度は特に、多様性の理解とその指導に重点を置き、 研究を深めることにした。

Ⅲ 研究の方法

- ○講師を招聘しての学習会を通して、国や東京都の性教育に関する動向や指導の留意事項等について学び、性教育の推進のために活用する。
- ○「主体的・対話的で深い学び」に沿った小学校における性教育の在り方について、授業実践や研究授業を通して理解を深める。
- ○組織的、系統的に性教育を実践している事例校から学 び、会員の所属校における性教育の充実につなげる。

Ⅳ 研究の内容

(1) 学習会「小学校における性教育の在り方・進め方」

〜多様性を認め合える児童の育成を目指して〜 講師 東京都小学校性教育研究会会長 北区立柳田小学校校長 大田 裕

今の子供たちの実情から見えてくる課題と、「性の多様性」を学ぶことの大切 さについて、倉敷市教育委員会発行の「人権教育実践資料3 性の多様性を認め 合う児童生徒の育成 II 」を基に学習会を行った。

学校における性同一障害に係る児童生徒への支援については、平成22年から これまでに文部科学省も様々な対応を進めており、学校における支援体制や医療 機関との連携、学校生活の各場面での支援などについて具体的に示されている。

私たちの固定観念を問い直し、「少数の人の話」「自分には関係のない話」ではなく全ての児童が、人権教育である「自分自身を含む『性の多様性』の尊重」について正しく理解し、互いを認め合うことができるような指導をしていくことが重要である。

(2) 全国性教育研究大会の参加

8月4日・5日に熊本市で開催された全国性教育研究大会に参加し、学んだことをレポートにまとめ、会員に報告した。



- ▶小学校分科会では、実践事例が紹介された。
 - ①子供たちが主体的に学ぶためのツールとして I C T を効果的に活用した、熊本市の2つの小学校の実践事例。
 - ②宮崎県日南市では令和元年度から2年をかけて、いのちの教育研究推進委員会で「日南市『いのちの教育』の手引き」を完成させ、義務教育9年間を通した指導体系(レインボープラン)を整えた。その紹介と実践事例。
- ▶課題別分科会では、「保護者・関係団体と学校との連携及び学校に於ける性教育の推進」や「性的マイノリティ当事者の児童生徒の理解と学校が求められる支援について」の講演や協議に参加した。

他県の素晴らしい実践事例に触れることができ、充実した研修機会となった。

(3)授業実践と研究協議

授業公開 「第4学年 体育科保健領域」 単元名 体の発育・発達 第2時 思春期の体の変化① ~体の外にあらわれる変化~

授業者 品川学園 主幹教諭(養護) 村松 理映子 体の発育や発達について正しい知識を身に付け、自分の成長を肯定的に捉えられるよう、指導上の工夫を学年と検討し、学習計画を立てた。

事前および事後にアンケートを行い、児童の実態と授業後の成果について把握したり、グループ活動を取り入れ、大人に近付く体について自分事として考えたり友達の意見を聞いて考えを広めたりした。また、毎時間のファイリングしたワークシートを児童は家庭に持ち帰り、保護者に伝えたりコメントをもらったりして、保護者との連携を図った。



授業後の協議では、児童の主体的な活動や思考を深める工夫について検討した。

男女の体の違いに関する指導は、生物学的知識として必要であるが、性の多様性や 児童の自認する性についても十分配慮する 必要があることを確認した。

学校医など専門的な立場の人の協力や、学校保健 委員会などを活用した保護者との連携など、効果的 な指導の工夫についても意見が出された。



学校全体で性教育を推進するために、他教科とも

関連付けた系統立てた指導計画の作成が課題としてあげられた。

V 研究のまとめ

- 〇子供たちの健全育成には性教育の推進・充実が必要不可欠であり、学校の役割は大きいと考える。各学校において課題を出し合い、家庭の役割、学校の役割、地域の役割について明確にするなど、協同体制の構築について検討していきたい。
- ○性犯罪・性暴力は、被害者の尊厳を著しく踏みにじる行為であり、その心身に長期にわたり重大な悪影響を及ぼすことから、その根絶に向けた取組が強化されている。子供たちを性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にさせないための「生命(いのち)の安全教育」については、各学校において推進していくこととされている。児童の発達の段階や学校の状況を踏まえて、確実に取り組んでいく必要がある。
- ○性の多様性については、社会的な関心は高まっているが、その理解は十分に進んでいるとはいえない。多様な性について知り、一人一人の性のあり方を尊重し、認め合える児童の育成について、今後も研究を深めていく必要がある。

(4) 全国性教育研究大会参加報告会および学習会

講師 東京都教職員研修センター企画部企画課 指導主事 町田 典夫 氏

- ①全国性教育研究大会の参加者からレポート報告 講師の町田先生からは、全校に性教育を広め推進するために必要 なことについて、具体的な指導を受けた。
- ②学習会「生命の安全教育」の推進について

生徒指導提要「第12章 性に関する課題」には、性犯罪・性暴力に関する生徒指導の重層的支援構造 『課題未然防止教育』の中に各教科や道徳科、学級活動や HR 活動等における、児童生徒が「性犯罪・性暴力に対して適切な行動がとれる力」を身に付けることができるような「生命(いのち)の安全教育」の実施

と記されている。

校内で推進する際は、文部科学省「生命(いのち)の安全教育」 指導の手引きや人権教育プログラムなどを活用し、指導上の配慮事項や想定する事前事後対応等を十分に検討・共有するなど



して推進役となり、積極的に進めることが重要である。

団体名		東京都小学校性教育研究会		
	所属	北区立柳田小学校		
代表者	職 氏名	校長 大田 裕子		
	連絡先	03-3911-5409		
事務局	所属	北区立浮間小学校		
	職 氏名	主任養護教諭 田村 佳子		
	連絡先	03-3969-0491		
団体ホームページ		URL	二次元コード	

研究主題 「令和の日本型教育」を担う教師に求められる教育の方法及び技術 ~子供の資質能力育成・定着を目指して~

I 団体の概要

東京都小学校教育技術・指導法研究会は令和5年4月1日に発足した研究会である。東京都の小学校における教師に求められる資質・能力である「教育の方法及び技術」に関する事項の向上を目指し、研究の交流と振興を図ることを目的とする。

Ⅱ 研究の目的

「令和型の日本型教育」を担う教師に求められている資質能力として 「教育の方法及び技術」がある。

文部科学省中央教育審議会義務教育特別部会

「優れた教師が備えるべき資質・条件」教師が身に付けておく資質

- (1) 教材研究
- (2)年間、単元、毎時間の計画、教材づくり
- (3)指導方法・指導技術
- (4) 黒板の書き方、発問や指示の出し方、集団の動かし方
- (5) 見取りと評価
- (6) テストづくり、丸付け、ノート指導

東京都の全ての教員**の**資質能力向上に繋がるよう、研究の交流と振興を図ることを目的としている。そして、その成果を東京都の全ての子供たちの資質能力向上に繋げるために、東京都教育委員会からの認定を受け活動している。

目的を達成するために、定期的に研修会や学習会を開催し、学び続けていける場を提供していく。

Ⅲ 研究の方法

- (1)研究の進め方
- ① 時代が移り変わるとともに社会や児童像も変化し、新しい教育 課題が生まれる。
- ② 教育課題を解決するためには、普段の授業などの教育活動だけでは困難である。
- ③ 問題点を明確にし、具体的な解決策を模索・提案し、**一般化により多くの教師に役立てる**ことで課題の解決を図る研究、研修を行う。
- (2) 教育の方法及び技術

どうやって学級を開くのか、どうやって授業を組み立てるのか、 どうやって特別な支援が必要な子供に対応するのか。子供にとって 価値ある教師になるために必要不可欠な**技術**を、子供のいる教室で 使いこなせる**技能**にする。

- (3)教育の方法及び技術の3つの段階「守破離」
- ① 守【知識・技能期】 教育の方法及び技術の知識をインプットする。 教育の方法及び技術の知識をアウトプットする。

知識から技能へ⇒教育の方法及び技術の獲得

② 破【思考·判断·表現期】

身に付けた教育の方法及び技術を場面に応じて使いこなすこと ができる。

授業の中で実践を重ね自分の教育の方法及び技術の引き出しを増やしていく。

教育の方法及び技術を全ての教育活動に繋げていく ⇒専門性の積み上げ

③ 離【主体的な人間性の涵養期】

教育の方法及び技術を技能として次の世代の教員に伝えることができる。

多くの教員に役立つ教育の方法及び技術を一般化して広く伝えることができる。

Ⅳ 研究の内容

(1) 教育技術の重要性

5月24日、立川市立第七小学校体育館にて、本会員が行った模擬 授業に対し、玉川大学教職大学院教授 谷和樹先生から、指示発問や 子供の対応といった授業技術や、対応が困難な子に対する心構え、原 則を指導していただいた。

子供たちの様々な問題行動に対応できる**安定した授業力**、学級経営力は教師にとって必須の力である。最もよくないのは、対症療法的に必死になってしまうことだ。そのような授業の技術、授業の技能、授業の原則を、まずは**学んでいく努力**が必要である。

また、教師としての力を高めていくには、 学校の仕事を一流にできるようになること はもちろん、公的な研修で学ぶことが重要 となる。それ以外にも、**主体的に自ら学ぶ** ことも大切である。



そして、何よりも重要なのが、**「自主的な 🌌**

勉強会」で学ぶことである。一緒に時間を共有して、レポートを持ち 寄ったり、模擬授業を見合ったり、月に一回でも、定期的にそのよう なことができる**仲間がいる**ことが、最も効果がある勉強法となる。

(2) 外国語の教育技術・指導方法

11月29日、同体育館にて、外国語を専門として学ぶ本会員3名が模擬授業を行った。玉川大学大学院名誉教授 佐藤久美子先生からは、「定着させる工夫と指導」をテーマに、以下のご指導をいただいた。 ①自分が話した英語が通じた喜び、やり取りができた喜びを感じさせるように、より自然な会話を練習させるとよい。(Excuse me や Yes/No

を加えて練習)これが**言語活動**である。自然な会話を目指すことは、導入にも効果的である。

②話したい内容(単語)が教科書にない場合、辞書で調べる習慣を付けるとよい。これが言語活動につながる。



Ⅴ 年間計画

(1) 5月24日(水)

○会員総会 ○講演「教育技術の重要性」

講師:玉川大学教職大学院教授 谷 和樹 先生

(2) 8月22日(火)

○講演会「教育技術・指導方法」

講師:関西外国語大学教授 松崎 力 先生 日本文化大学専任講師 木村 重夫 先生 東京福祉大学特任教授 駒井 隆治 先生

(3) 11月29日(水)

○講演会「外国語の教育技術・指導方法」講師: 玉川大学大学院教育学研究科

(教職専攻) 名誉教授 佐藤 久美子 先生

(4) 12月9日(土)

○講演会「指導技術の身に付け方」

講師:東京都公立学校指導教諭 千葉 雄二 先生

(5) 1月31日(水)

○講演会 講師: NPO 教授法創造研究所代表 椿原 正和 先生

*この他に毎月、立川市立第七小学校にて勉強会を開催中

(1)相の十度定相が				
団体名		東京都小学校教育技術・指導方法研究会		
代表者	所属	立川市立第七小学校		
	職 氏名	校長 島村 雄次郎		
	連絡先	042-523-5348		
事務局	所属	練馬区立立野小学校		
	職 氏名	副校長 木村 順子		
	連絡先	03-3930-9101		
団体ホームページ		URL	二次元コード	
		https://toshogiken.jimdosi te.com/		